



図-4 オリジナルラベル（右）と再同定後のアノテーションスリップ（左）



図-5 昆虫標本と標本ラベル

統計データから

飼料作物の作付（栽培）面積（令和5年産）

畜産経営コストに占める飼料費の割合は高く、粗飼料の給与が多い牛で4～5割、濃厚飼料中心の豚・鶏で6～7割を占める。令和4年度（概算）の飼料自給率（全体）は26%（TDNベース：カロリーに近い概念。家畜が消化できる養分の総量）と低い水準である。

そこで、農林水産省では、飼料自給率の令和12年度目標を34%に高めることを掲げている。このため、耕畜連携の推進や、外部組織による飼料生産の効率化、青刈りとうもろこし等の高栄養飼料作物の生産拡大、草地の生産性向上等により、国産飼料の生産・利用の拡大を進めることが重要としている。

畜産における飼料供給割合は、主に国産が占める粗飼料が20%で、輸入が占める濃厚飼料が80%の構成であるが、目標では粗飼料自給率は78%から100%へ、濃厚飼料自給率は13%から15%を目指している。

令和5年産飼料作物の作付（栽培）面積及び収穫量を、令和6年3月公表の作物統計調査から、都道府県別の作付面積上位を含めて表-1に示した。

牧草の作付（栽培）面積は705,200haで、前年産に比べ1%減少。近年、規模拡大等により草地管理にかかる時間が減少し、草地改良率の低下（草地更新・整備面積：1.6万ha、更新・整備率：3.0%）や、難防除雑草の対策が課題となっている。

青刈りとうもろこしの作付面積は97,200haで、前年産に比べ1%増加。栄養価が高く、濃厚飼料の低減にも寄与し、関東以西の暖地では二期作も可能なので、酪農経営には重要な飼料作物である。

ソルゴーの作付面積は11,700haで、前年産に比べ2%の減少である。（K. O）

表-1 令和5年産飼料作物の作付面積・収穫量

牧草			青刈りとうもろこし			ソルゴー		
都道府県	作付面積 ha	収穫量 t	都道府県	作付面積 ha	収穫量 t	都道府県	作付面積 ha	収穫量 t
全 国	705,200	23,951,000	全 国	97,200	4,939,000	全 国	11,700	488,900
北海道	522,300	16,975,000	北海道	60,400	3,316,000	宮 崎	2,200	114,200
岩 手	33,900	932,300	栃 木	5,280	266,600	長 崎	2,030	81,800
鹿児島	18,000	1,067,000	岩 手	4,820	192,800	鹿児島	1,240	62,700
青 森	17,600	468,200	宮 崎	4,480	203,800	大 分	676	33,900
宮 崎	15,300	884,300	熊 本	3,300	146,200	兵 庫	643	14,700
熊 本	13,500	553,500	茨 城	2,460	115,600	熊 本	618	32,500
宮 城	11,700	217,600	群 馬	2,420	118,800	千 葉	408	18,400
栃 木	7,740	301,900	福 島	1,530	63,000	茨 城	317	12,000